

2009年秋学期レポート

フリーモント到着

2009年7月25日にカリフォルニア州にあるフリーモント市に到着した。日本と比べ乾燥した気候で、日差しが強いものの、海が近いからなのか涼しい。朝夕は冷え込むので長袖で寝る日もあったくらいだ。フリーモントへ来たのは英語力向上のためであり、1年後にギャロデット大学入学を目標としている。オーロニ大学は小さなコミュニティカレッジだが、ろう者のためのサービス支援が整っており、多くのろう者が通っている。

履修クラス

今学期履修したクラスは、英語リーディング、英語ライティング、数学、ろう文化である。

1) 英語リーディング

ろう学生のみ、20人ほどの少人数クラスである。先生は聴者で、手話で話す。たくさんの読書量が求められる大学生活の中で、教科書などを効果的に読む方法を教わった。

2) 英語ライティング

30人ほどのメインストリーミングクラスで、手話通訳2名と、文字通訳1名を介して受けた。通訳を介して授業を受けるのは初めてのことなので新鮮だった。主にエッセーの書き方を習う。高校を卒業したばかりのアメリカ人や英語を第二言語とする学生が多い国際色豊かなクラスであった。エッセーの下書きを書いた後に「ドラフトワークショップ」という、数人ごとのグループに分かれて同じグループの下書きをそれぞれ読み、(1)大切なポイントが全て書かれているか、(2)矛盾点はないか、(2)読み手にとって不明瞭な部分はないか、などをチェックするグループワークがあった。他の人のエッセーを読んだり、自分のエッセーを第三者に読んでもらい指摘してもらうことで、自分では気付かなかったポイントに気づくことができ、より明瞭なエッセーを書く助けとなった。

3) 数学

ろう学生のみ、10人ほどの少数クラスで先生もろう者である。数学専門英語がたくさん出てきて文章題を解くときにこずったが、内容は高校で習ったものばかりだったので英語で数学の復習をしているようであった。また、日本とアメリカでは問題の解き方が違うところや、日本では習わなかった箇所が所々あり、日米の違いを実感した。

4) ろう文化

ろう文化クラスは文字通りろう文化について学ぶクラスである。講師はろう者。生徒はほとんどが聴者で、コーダ、手話通訳士をめざす学生、ろう学校・難聴学級の先生、ろうコミュニティに興味がある人、と様々でみな違ったバックグラウンド、視点を持っていてそれぞれの意見が興味深かった。ろう者固有の文化の発祥の背景や歴史などを学んだ。

秋学期を終えて

秋学期を振り返ってみると、身に付いたボキャブラリーがだいぶ増えたように思う。単語の意味がわからなくても、前後の文脈から大分予測できるようになったが、まだ読む速度が遅いのが課題である。ライティングでは、文法的には正しいが、不自然な英語だとよく言われた。ライティングの先生が言っていた「書くことは読むことから始まる。」という言葉に胸を留めて、冬休みの間も英語の本を読み続けたい。課題に追われる日々だったが時間を見つけては友人と食事をしたり、イベントに参加したり、近くの観光スポットへ遊びに行ったりと、生活面も充実していた。来年の9月にギャローデット大学入学を目指して春学期もがんばりたい。